

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | | |
|------|---|----------|
| 対象部局 | 統括部局：学長室 | 担当部局：学長室 |
| 大項目 | 0 理念・目的 (研究科)《全学的な視点》 | |
| 中項目 | | |
| 小項目 | 0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 | |
| 要素 | 理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応 | |
| 小項目 | 0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。 | |
| 要素 | 構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法 | |
| 小項目 | 0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 | |
| 要素 | | |

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 |
|--|---|------|
| 1. 関西学院大学が設立された建学の理念・ミッションを再確認し、その今日的展開として「ミッションステートメント」を宣言し、本学の教育・研究などあらゆる活動の指針とする。 | → 「ミッションステートメント」の策定及び宣言 | A |
| 2. 本学はその理念とするキリスト教主義にもとづいた特色ある教育研究をもって社会に寄与するために、「目指す大学像」を掲げ、その実現に向けた実施計画を策定する。 | → 「目指す大学像」にむけた実施計画の策定 | A |
| 3. 「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」を学内において共有し、学外に公表する。また、その浸透・認知のために具体的施策を実施する。 | →①学生及び教職員における「ミッションステートメント」、「目指す大学像」の浸透度 ②卒業生における「ミッションステートメント」等の認知度 | B |
| 4. 建学の理念等の学内外における浸透度・認知度を測定する体制を整備する。 | →ミッションステートメント等の浸透度、認知度を測定する手段の整備と調査の実施 | D |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 |
|-------------------|-----------|------|
| | → | ☆ |
| | → | ☆ |

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

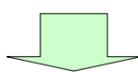
| | |
|------------|--|
| ☆ 小項目0.0.1 | <p>(理念・目的) 新基本構想(2008年12月承認)において策定された「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」は、次の通りである。</p> <p>(1) ミッションステートメント：関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”[「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるために自らを鍛える関学人のあり方を示す]を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とする。</p> <p>(2) 目指す大学像：関西学院大学は、キリスト教主義に基づく「垣根なき学びと探究の共同体」をめざし、全人的な教育と創造的な研究により有能にして心温かい世界市民を社会に送り出すことを使命とする。</p> <p>《目指す大学像設定の趣旨》1929年、新設の西宮上ヶ原キャンパスに立った第4代院長C. J. L. ベーツは、果樹園へつらなる開放的なキャンパスを、“We have no fences”と評した。当時のキャンパスには、教員と学生、大学と社会、国境という垣根を意識させない「学びの探究の共同体(ラーニングコミュニティ)」が存在し、新しい社会を創造する気概にあふれていた。現在、世界は、グローバル化やICTの急進に伴い、地球規模の相互依存が深まる一方、人種・文化・宗教・民族・国家の間にある《垣根》により現代社会特有の摩擦・軋轢が生まれている。こうした現代社会にあって関西学院大学は、高い専門能力と深い人間理解をあわせもち、他者に対する共感をもって人類社会の幸福に貢献する意思と能力をもつ人物を養成するために、キリスト教主義に基づき、学生・教職員すべてが主体的学び合う《垣根なきラーニング・コミュニティ》の実現を目指す。</p> <p>(現状説明) ミッションステートメントとは、関西学院の社会における存在意義や使命を示したものである。それ故、キリスト教主義に基づく行動指針とスクールモットーを体現できる人材の育成をうたった「ミッションステートメント」と「目指す大学像」は、大学の理念・目的としては、適切なものだと考えられる。また、日本の社会の中にあって、差別なき社会を目指すために、キリスト教主義を主体とした教育をすることは、非常に有意義であり個性的だと考えられる。</p> |
|------------|--|

| | |
|------------|--|
| ☆ 小項目0.0.2 | (現状説明) 「ミッションステートメント」および「目指す大学像」は、2009年4月に配布されたパンフレット「関西学院 新基本構想」において、広く世間に公表されている。また、2009年9月の創立記念式典において、大学だけでなく、関西学院全体として、その内容の再確認が行われた。 |
| ☆ 小項目0.0.3 | (現状説明) 「ミッションステートメント」および「目指す大学像」の内容についての検証であるが、当初、その内容の浸透や認知状況を測定するためのアンケート調査を行ない、結果を公表する予定であった。しかし、調査の対象をどうするかやその対象ごとに調査項目をどうするかということに議論が集中し、結果として調査項目を確立できず、アンケート調査自体も行われなかった。 |
| ☆ その他 | |

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

| | |
|------------|---|
| 小項目0.0.1 | ややもすれば、正確な内容がうまく伝わらない「ミッションステートメント」や「目指す大学像」であるが、公表に当たって内容を吟味し、例示を入れることで、より具体的にその内容を確認することができた。 |
| ☆ 小項目0.0.2 | 「ミッションステートメント」を学生および関係者により広く理解してもらうために、その内容が記載された名刺サイズの印刷物を配布する。 |
| 小項目0.0.3 | |
| その他 | |



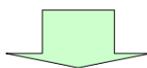
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

| | |
|------------|---|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | |
| ☆ 小項目0.0.3 | アンケート調査における調査項目を早急に確立し、速やかに調査を行なえる体制を整える。 |
| その他 | |

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

| | |
|------------|--|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | |
| ☆ 小項目0.0.3 | |
| その他 | |



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

| | |
|------------|--|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | |
| ☆ 小項目0.0.3 | |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|-----------------|--|
| ☆ その他 (自由記述) | |
|-----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 大学の理念・目的の周知が図られ、新基本構想等において公表されたことは高く評価されます。
- 浸透度、認知度の測定については、早期に議論の結論を出し、実施することが求められます。

【学内委員】

- 進捗評価は、目的達成を基準としての評価です。2つの目標に対して、1年間の進捗評価がAですので、現在の目標の次の目標を設定することが期待されます。1については、目標と指標の整合性がとれていないので、指標を変更することが望まれます。2については、計画の策定が目標となっていますので、次年度以降の目標を定めることが求められます。
- 本項目が全学的な視点、個別的な視点を問わず、一番重要であることは言うまでもありません。設定はなされましたが、その周知徹底は全ての施策の源泉となるものです。様々な機会を通しての周知・公表を願います。
- 学部の現状説明と同じことが述べられています。学部とは異なる視点で目標を設定し、進捗状況を判断することが期待されます。
- 各学部・部局の目標は、大学の理念・使命・目的を実現するためのものであるとも言えます。したがって、大学の理念・使命・目的は当然ながら大変重要なものであり、全構成員が認識すべきものです。新基本構想・新中期計画により関西学院の理念・使命・目的を再認識され、その浸透を図ることに期待します。
- 目標にも掲げられ、課題とされているように、浸透度・認知度について測定する方法や手段を早急に確定し実施されることを望みます。理念・使命・目的の浸透は時間がかかりますが、浸透し認識されることで一層の価値が出てきます。
- 「学部の新設は関西学院の目指す理念をいっそう具体的なものにするための施策」と2008年度の自己点検・評価で示されています。2009年度に国際学部が新設されました。説明に加えられることが望まれます。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。
- 現状説明などはおおむね的確に記述されています。
- 目標4は、小項目0.0.3に直接関わるとはいえないと思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

| | |
|----------|--|
| 0.0.0.S1 | 本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価 |
| 0.0.0.S2 | 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか |
| 0.0.0.S3 | 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率 |
| 0.0.0.S4 | 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率 |
| 0.0.0.S5 | 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率 |
| 0.0.0.S6 | 本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数 |
| 0.0.0.S7 | 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数 |
| 0.0.0.S8 | 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数 |

<個別的な指標>

| | |
|--|--|
| | |
| | |